

新組織エンジニアリング本部の設立と目的

ローリスク・ハイリターン of 事業構造を構築し、
受注と収益の拡大に貢献するとともに、
世界トップレベルのEPC遂行能力を有する
「世界が認めるエンジニアリング集団」を目指します。



西澤 隆人
エンジニアリング本部長

三菱重工グループでは、2012年1月に、全社のEPC（設計・調達・建設）事業を集約する新組織「エンジニアリング本部」を設立しました。これは、いままで積み上げてきた社内のEPC技術とノウハウを統合・強化するためにEPC遂行組織を一体化するもので、海外で拡大する大規模インフラマーケットに迅速に対応し、EPC事業の収益拡大を図るとともに、中核製品の伸張を実現していくことを目的としています。また、スマートコミュニティをはじめとするソリューション・ビジネスの統括本部としても機能させていきます。

新興国市場を中心に、火力・原子力などの発電プラントや環境・化学プラント、さらには、高速鉄道、水事業などの大規模なインフラ・プロジェクトが多数計画され、ビジネスチャンスが大きく広がっています。一方で、このマーケットには、欧米の強豪企業だけでなく、急速に競争力をつけてきた中国、韓国企業も参入して

受注競争は熾烈さを増しています。このような情勢の中、当社もEPC事業の競争力をさらに向上させ、当社中核製品の強みとの相乗効果を増すことで大規模プロジェクトを受注し、収益を拡大するビジネス構造に転換していく必要があります。

当社の強みは、「ものづくり」企業でしか持ち得ないコア製品技術力をエンジニアリングに活用することにより差別化を図り、プロジェクト遂行や資材調達においては、「組織の横通し」や「スケール・メリット」の発揮によりシナジー効果を得られるところにあります。

これまでも新興国市場などの大規模インフラ需要の取り込みに力を注いできましたが、今回、既存の事業本部の枠組みを超えてEPC部門を統合し、EPC事業とソリューション・ビジネスに対応する新組織を立ち上げたことで、この取り組みを一層強化していきます。

